

仙台市における震災廃棄物等の 処理の概要について



平成24年12月3日

仙 台 市

<仙台市の震災廃棄物の処理方針>

(1) 発生量

- 震災廃棄物発生量は135万トン、
津波堆積物は130万トンと推計

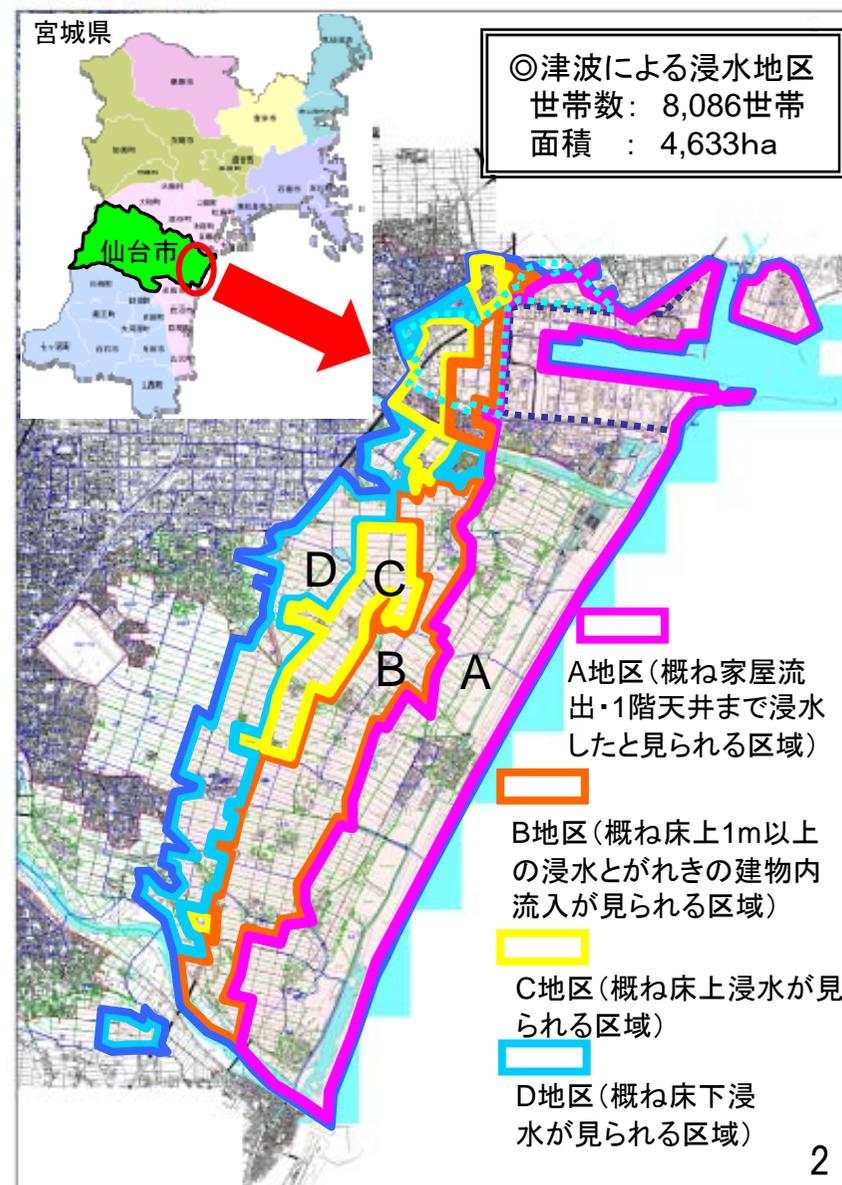
(2) 目標

- 発災から1年以内の撤去完了、
3年以内の処理完了

(3) 処理の特徴

- ①『自己完結型』の処理 … 仙台市域内で処理完結
- ②一次・二次仮置き場を一元化した『搬入場』
(中間処理場)を整備
⇒迅速処理, 生活環境の保全, 処理費用の低減
- ③地元業者への発注 ⇒ 地域の復旧を地域経済の
復興へ繋げる

★浸水地域の状況

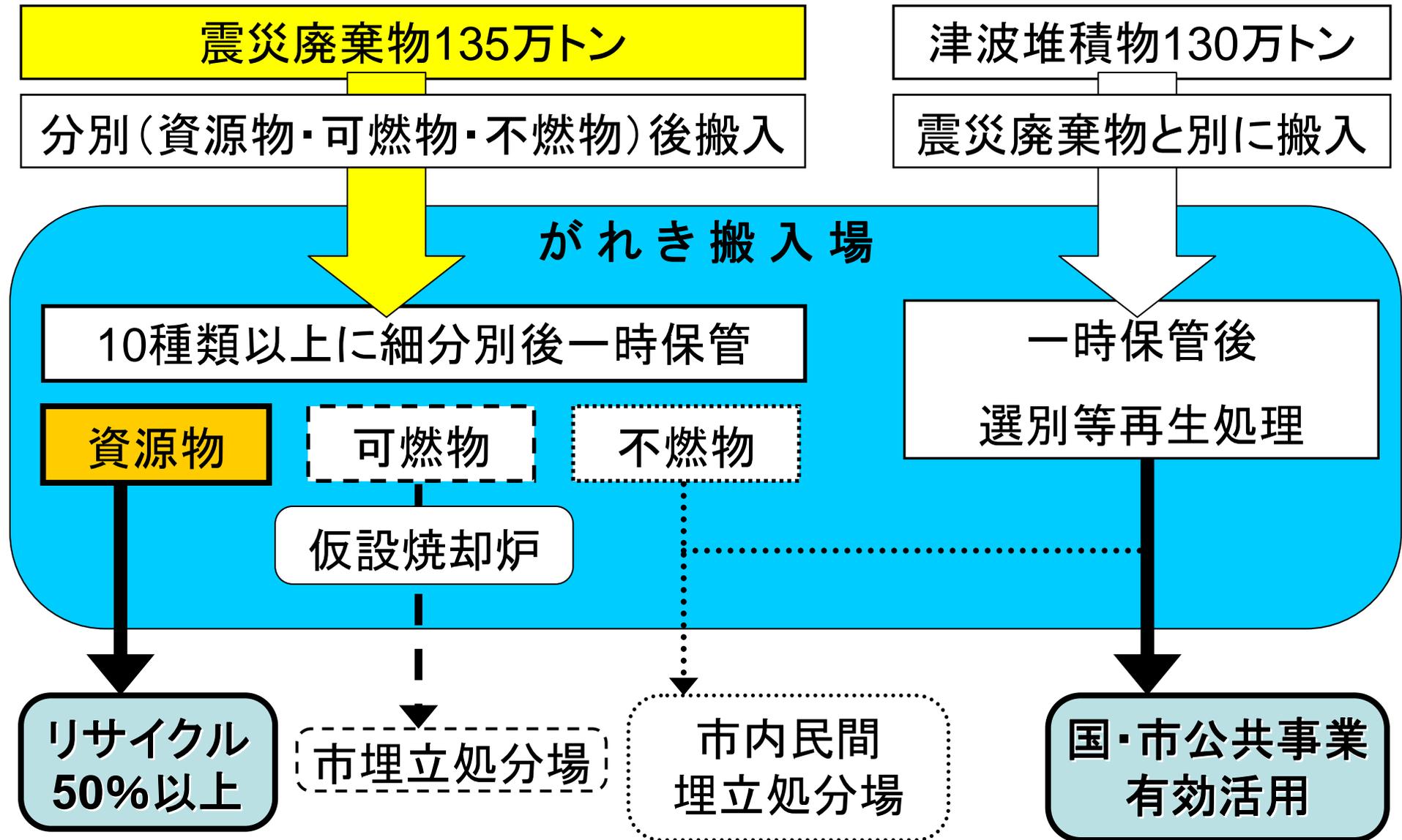


＜震災廃棄物等の発生量＞

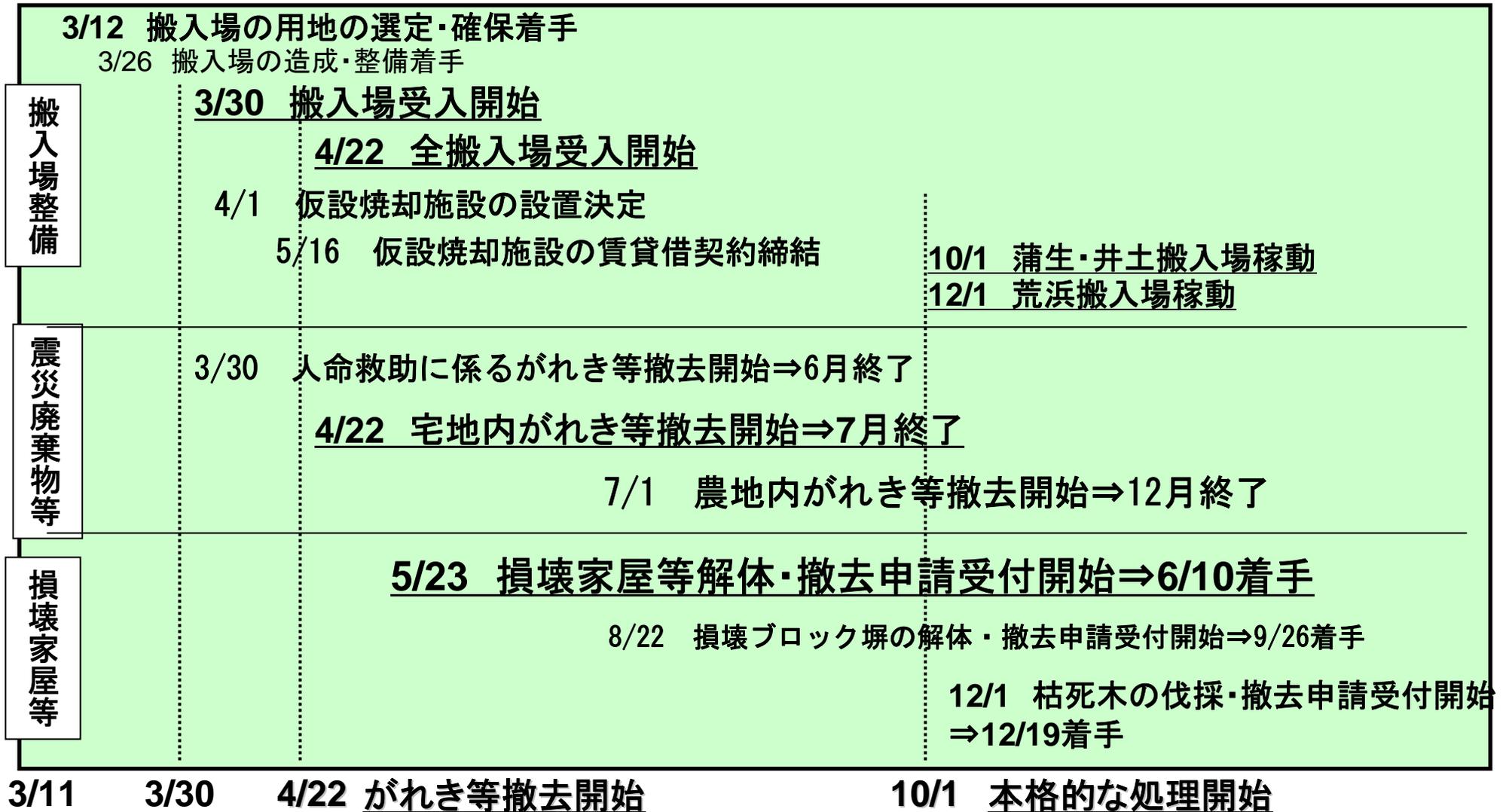
津波浸水区域の流出家屋の棟数，解体・除去が見込まれる被災家屋の棟数，地震被害等により解体・除去が見込まれる被災家屋の棟数などから推計

発生総量	内 訳	
	品 目 等	発 生 量
約135万トン	コンクリート・アスファルトくず	61万トン
	木くず	24万トン
	金属くず	2万トン
	瓦・石膏ボード等	6万トン
	その他の可燃物(廃プラ, 粗大)	7万トン
	その他の不燃物(粗大)	3万トン
	公共施設から発生するがれき等	31万トン
	被災自動車(約9,700台)	1万トン
その他	津波堆積物(土砂など)	130万トン

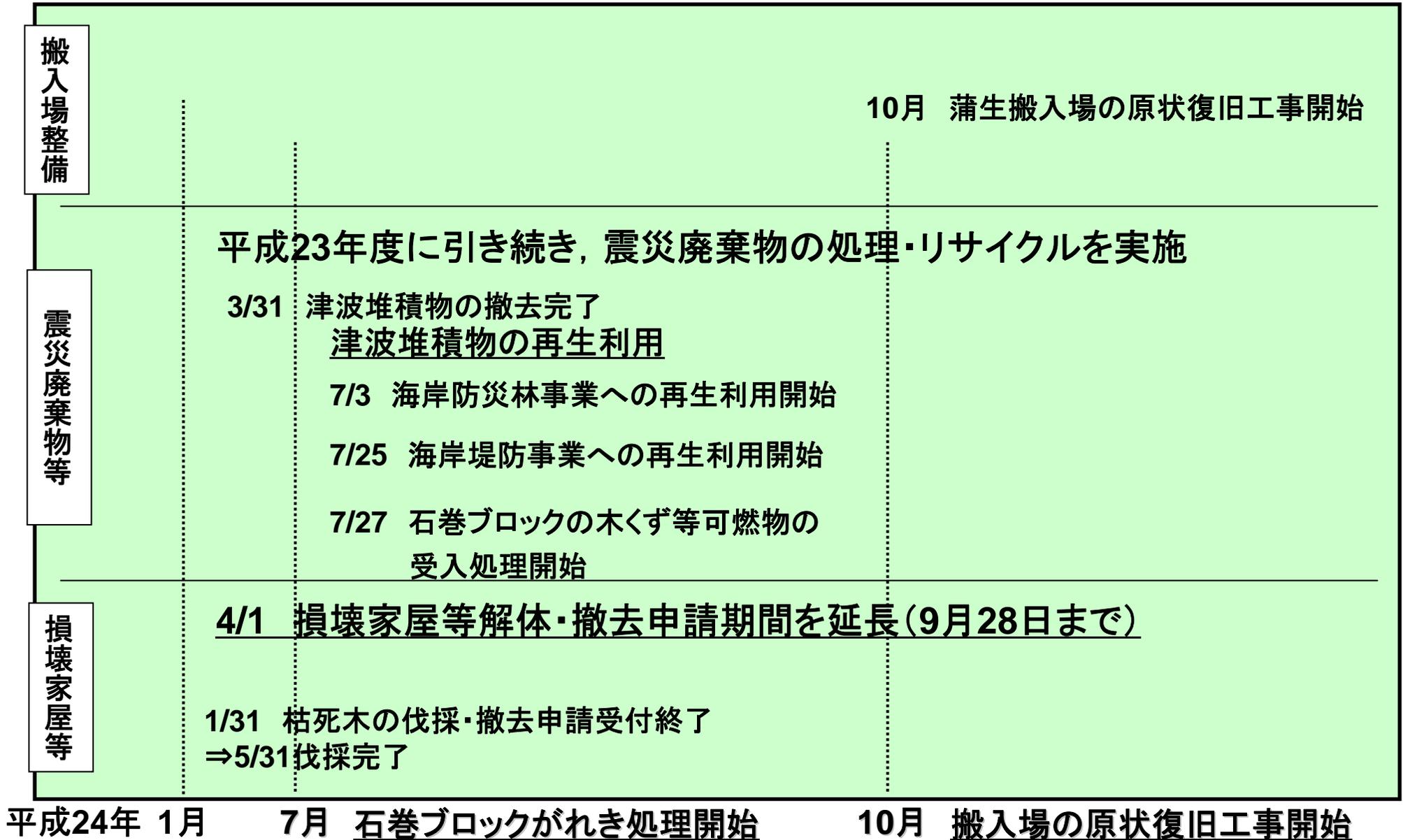
1. 震災廃棄物・津波堆積物の処理フロー



震災廃棄物処理の経緯①

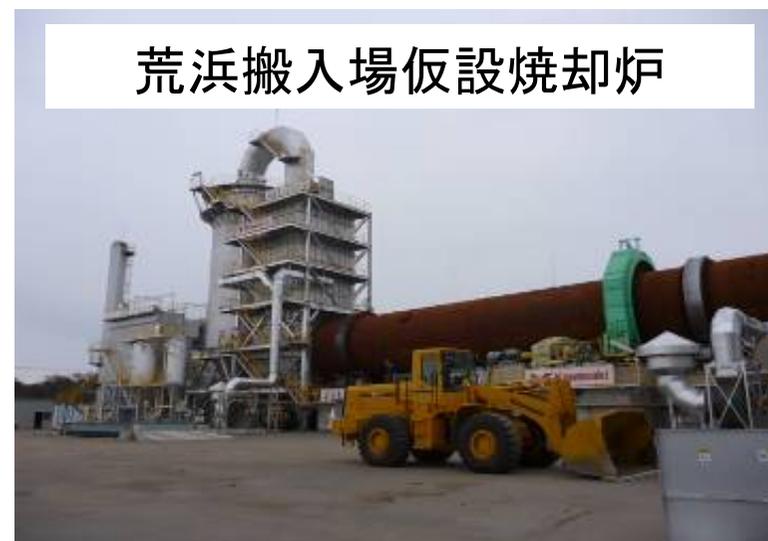


震災廃棄物処理の経緯②



2. がれき搬入場の整備・運用状況

- 一次・二次仮置き場を一元化した搬入場を東部沿岸地区に3箇所整備
- ⇒ 各搬入場内に仮設焼却炉等を設置し、がれき等を迅速に処理・安定化



2. がれき搬入場の整備・運用状況

○環境への配慮・安全の確保

- ・アスベスト対策 …… アスベスト含有廃棄物等の密封保管, 全市域でモニタリング・公表, 立入調査
- ・土壌汚染防止対策 …… アスファルト舗装・遮水シート敷設
- ・放射性物質の測定

空間放射線量(平成23年7月～)

⇒ 各搬入場の敷地境界の測定値 0.03～0.12 μ Sv/h

…… **市街地と大きな違いなし**

放射能濃度(平成23年10月～)

⇒ 各搬入場の主灰の測定値 34～320Bq/kg, 飛灰の測定値 300～1,380Bq/kg

…… **埋立基準の8,000Bq/kg以下を大幅に下回る**

2. がれき搬入場の整備・運用状況

○震災廃棄物の分別状況(蒲生搬入場)

コンクリートくず
⇒ 土木資材としてリサイクル



金属くず
⇒ 売却



木くず
⇒ ボイラー燃料等としてリサイクル



2. がれき搬入場の整備・運用状況

被災自動車

⇒ 所有者に対して引渡し等の意向を
確認後引渡しまたはリサイクル



アスファルト敷設

廃家電4品目

⇒ メーカー等指定引取場所に運搬後
リサイクル

置

⇒ RPF燃料としてリサイクル



遮水シート敷設

3. 震災廃棄物等の処理の進捗状況（平成24年11月15日現在）

(1) 震災廃棄物等の撤去

○損壊家屋等の公費解体を除き完了

表 損壊家屋等の解体・撤去の状況

損壊家屋等		ブロック塀		枯死高木
公費解体	事後精算	公費解体	事後精算	公費伐採
申請11,006	939	1,794	3,754	183
完了 9,476				

(2) 震災廃棄物の処理・リサイクル

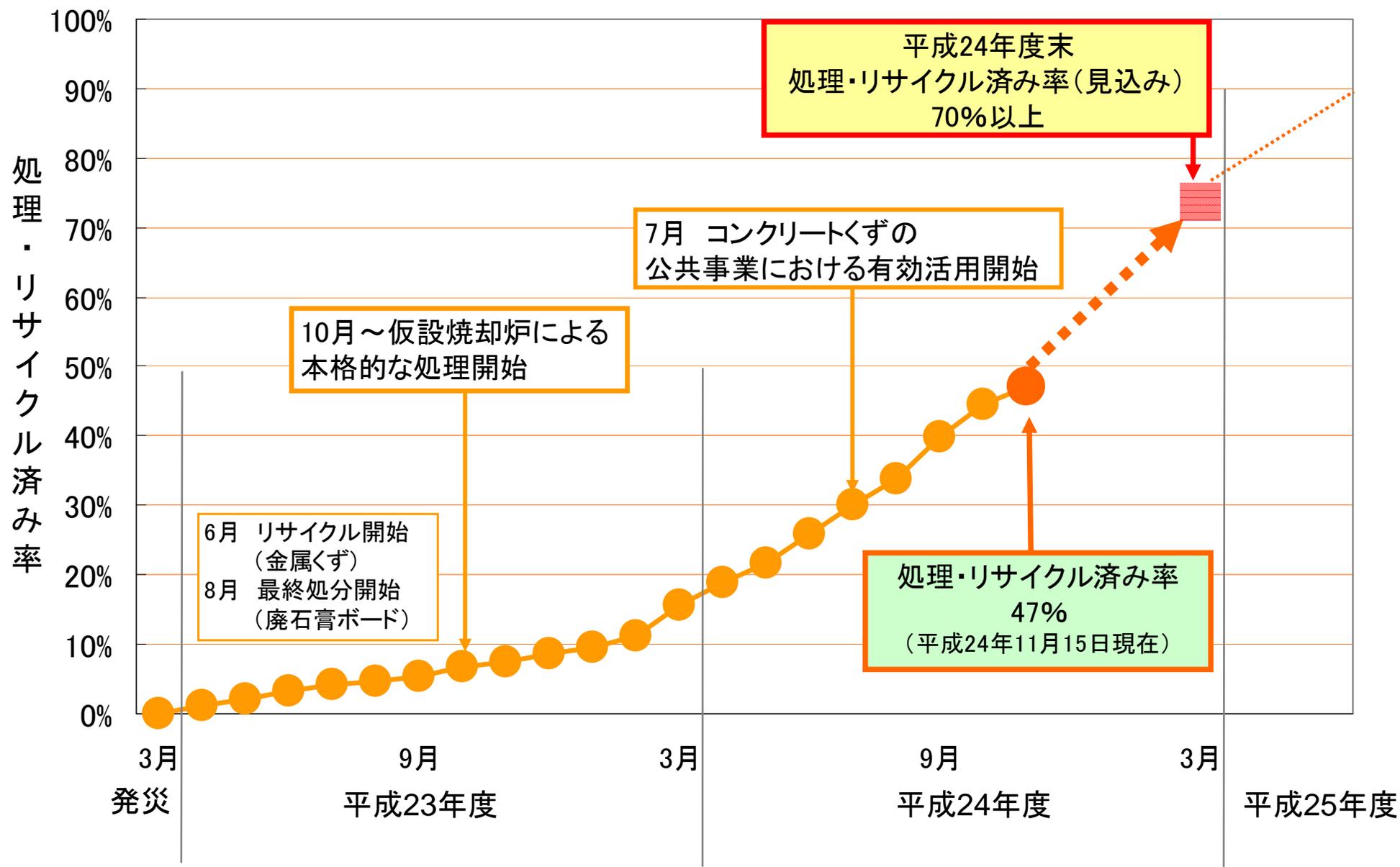
○ほぼ全品目の処理・リサイクル着手済み

○処理・リサイクル済み量63.7万トン（処理22.5万トン／リサイクル41.2万トン）

○発生量に対する**処理・リサイクル済み率47%**

3. 震災廃棄物等の処理の進捗状況（平成24年11月15日現在）

○震災廃棄物の処理・リサイクル済み率の推移



3. 震災廃棄物等の処理の進捗状況（平成24年11月15日現在）

(3) 市域外のがれき受入れ

- 受入対象地域
石巻ブロック(石巻市, 東松島市, 女川町)
- がれきの性状
木くず等を中心とした可燃物
- 受入予定量
最大10万トン
- 受入開始日
平成24年7月27日
- 処理方法
がれき搬入場※にて受け入れ, 本市のがれきと並行して焼却から最終処分まで一貫して処理
(10月から1,500t/週 受け入れ)
※平成25年1月からは既設の清掃工場においても受入予定
- 処理済み量
1.9万トン

市域外がれき受入れ地域説明会
(平成24年7月 岡田, 六郷, 七郷地区)



3. 震災廃棄物等の処理の進捗状況（平成24年11月15日現在）

(4) 津波堆積物等の再生利用

○対象

- ・津波堆積物 79万m³(122万トン)
- ・コンクリートくず※ 33万m³(83万トン)

※民間リサイクル済みの7万m³を除く。

○再生利用方法

不用物の除去等必要な処理を行い、安全性を確認後、国・市の公共事業の盛土材として活用する

○再生利用先

- ・国（海岸防災林事業・海岸堤防事業）

平成24年7月に着手済み

- ・市（海岸公園事業・かさ上げ道路事業）

平成26年度以降に事業実施予定のため、海岸公園用地内に再生処理した津波堆積物等を当面保管する

○再生利用量

津波堆積物 18.0万トン、コンクリートくず 8.9万トン

表 津波堆積物等の再生利用計画

	再生利用量		
	市公共事業	国公共事業	計
津波堆積物	44万m ³	35万m ³	79万m ³
コンクリートくず	27万m ³	6万m ³	33万m ³
計	71万m ³	41万m ³	112万m ³



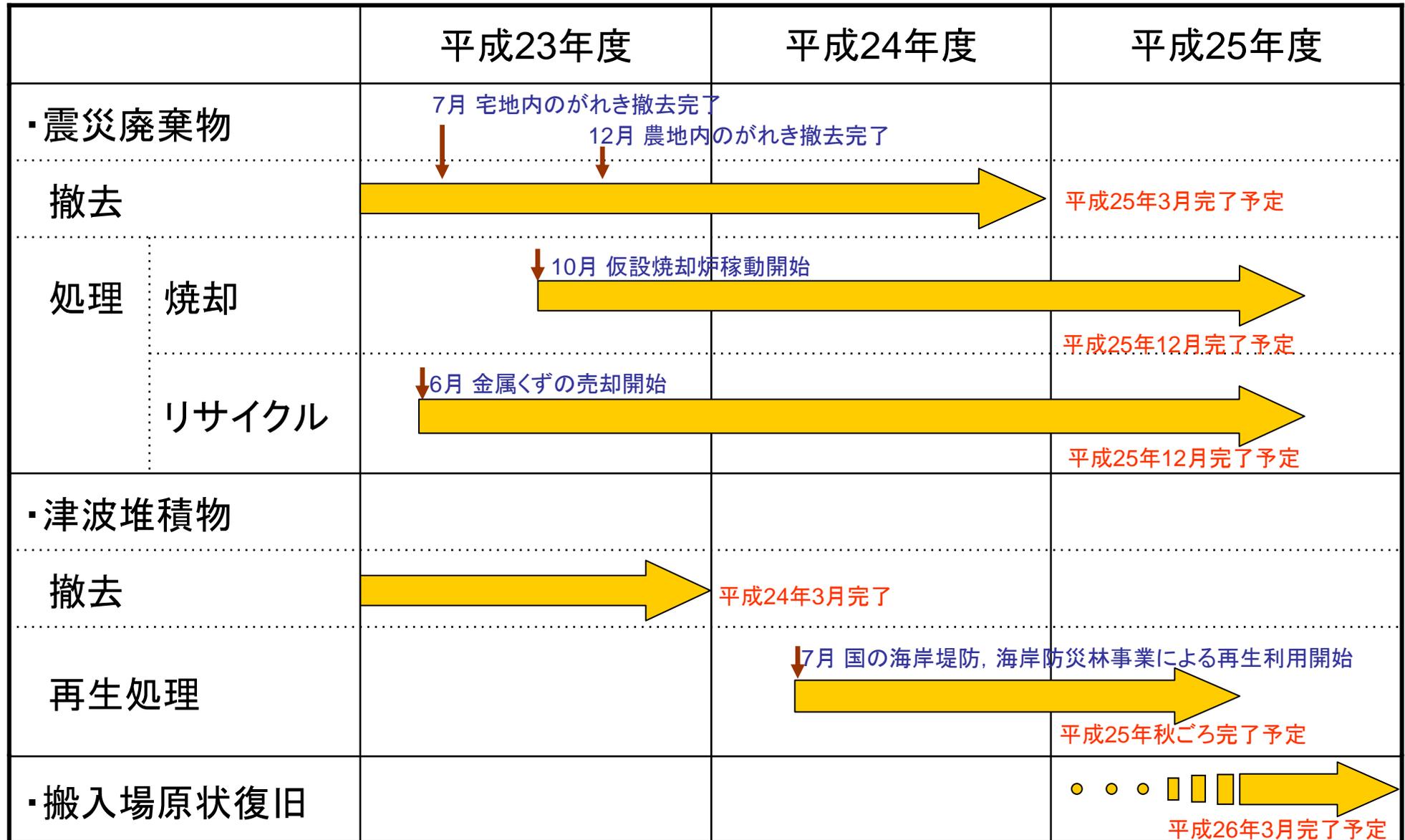
津波堆積物の処理状況



コンクリートくずの処理状況

4. 今後の取り組み

○震災廃棄物等処理の工程表



4. 今後の取り組み

東部沿岸地区の復興事業へと円滑に引き継ぐため、
次の事項を目標として、
引き続き震災廃棄物等の迅速かつ適正な処理等に努める

- 復興事業の再生資材等として
震災廃棄物等の更なるリサイクルを目指す
- 石巻ブロックのがれきを含む震災廃棄物等の処理について、
平成25年内を目途に完了する
- 平成26年3月までに全ての搬入場を原状復旧する